

## 児童発達支援 自己評価表 unico古賀

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	●		1階と2階で児童の活動に応じて支援を提供・設定している。
	2	職員の配置数は適切であるか	●		毎月指定人員数、unicoの規定人数に沿って確認をしながら支援に努めている。急な欠席でも左記事項を守り支援を行っている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	●		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	●		毎日チェックリストを元に清掃に努めている。身体を動かすスペース、座って遊ぶスペース、発散のスペース 時間や環境を分け行っている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	●		毎日の朝礼、毎週の運営MTGで確認し、認識を揃え進めている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	●		利用のご家庭からのご意見は運営MTGで全員で確認し、改善に努めている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	●		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		●	第三者機関からの評価を受ける代わりに、本社職員を事業所に派遣して評価を行う内部監査制度を年2回実施している。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	●		月に一回の定期研修を行っている。その他社外での研修の周知はその都度全員が見れる、参加できる仕組みになっている。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	●		契約時はシートに沿ってアセスメントを詳しくとるようにしている。デマンドとニーズを分け計画書作成を意識している。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	●		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	●		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	●		支援のポイントを朝礼時に毎朝共有し、支援に努めている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	●		活動は担当が作成しているが内容はチームで意見を出し合い行っている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	●		毎月毎日違ったワークショップを検討実施している。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	●		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	●		流れを決め、全体で共有をする時間を必ず設けている(朝礼)。参加できない職員にも伝える方法を工夫し行っている。伝わったかの確認まで行っている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	●		翌日の朝礼時に職員でMTGを行い、振り返り・気付いた点の共有を実施している。記録に残す。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	●		毎日支援の記録をとり、支援の検証改善は朝礼でリフレクションを行い改善につなげている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	●		児童に長期担当をつけており、全体の目と担当の目、児発管の見立てを合わせモニタリングを行う。
21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加しているか	●		長期担当または主に児発管が参加するようにしている。	
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	●		子育て支援科、相談支援等と密に連絡をとっており、連携した支援をおこなえるよう努めている。	
23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	-	-		

関係機関や保護者との連携	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	-	-	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか		●	担当者会議に参加し、日頃の様子、見立てからの支援をお伝えしている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか		●	就学相談時の会への参加は保護者希望があれば参加し、そこで日頃の様子支援内容を伝えている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		●	市の連携会議(研修)や支援センターが行う研修には積極的に参加するようにしている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか		●	活動で出かけた先で他児童とのかかわりはある。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加しているか		●	優先的に参加している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか		●	送迎時やモニタリング、担当者会議、連絡帳で伝えているが不十分さも感じており、頻度を増やす、もっと伝えられる方法を考えている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか		●	保護者研修のようなプログラムはありませんが、保護者面談や電話相談、保護者と一緒の活動参加イベントを開催し、その中でサポートしていている。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか		●	契約時にしっかりとお伝えしている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか		●	モニタリング時期に家での様子、保護者の思いを聞き取り、専門的な視点でニーズとし、目標や支援内容の説明を行うようにしている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか		●	保護者の気持ちをしっかりと受け取りながらも一緒に考えていけるよう、対応の仕方は常に対人援助の方法を意識し行っている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		●	児童発達支援では実施できていない為、今後は親子教室イベントを実施し、保護者同士のコミュニケーションの場を作っていきたいと考える。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか		●	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか		●	
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか		●	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか		●	
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		●		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか		●	社内で、必ず周知や訓練をおこなっている。保護者には現時点周知できていない。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか		●	上記に同じ。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか		●	契約時に詳しく確認を行っている。毎朝の児童の共有でも周知している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		●	保護者と連携をとり、毎回食事の活動は児童共有でかならず確認している。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか		●	毎日の振り返りで項目に入れていて作成している。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか		●	虐待防止委員会、ケース会の中で認識をそろえている。お互いに声を掛け合う意識も日頃から持てるようにしている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか		●	

## 放課後等デイサービス 自己評価表 unico古賀

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	●		1階と2階で児童の活動に応じて支援を提供・設定している。
	2	職員の配置数は適切であるか	●		毎月指定人員数、unicoの規定人数に沿って確認をしながら支援に努めている。急な欠席でも左記事項を守り支援を行っている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	●		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	●		毎日の朝礼、毎週の運営MTGで確認し、認識を揃え進めている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	●		利用のご家庭からのご意見は運営MTGで全員で確認し、改善に努めている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	●		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		●	第三者機関からの評価を受ける代わりに、本社職員を事業所に派遣して評価を行う内部監査制度を年2回実施している。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	●		月に一回の社内研修を行っている。市の3ヶ月に1回の連携会議にも参加し、そこでの研修も受けている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	●		契約時はシートに沿ってアセスメントを詳しくとるようにしている。デマンドとニーズを分け計画書作成を意識している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	●		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	●		活動は担当が作成しているが内容はチームで意見を出し合い行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	●		毎月毎日違ったワークショップを検討実施している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	●		一日の流れややるべきことを全員がわかるよう、チェックリスト化しやる事が統一して行えるようにしている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	●		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	●		流れを決め、全体で共有をする時間を必ず設けている(朝礼)。参加できない職員にも伝える方法を工夫し行っている。伝わったかの確認まで行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	●		翌日の朝礼時に職員でMTGを行い、振り返り・気付いた点の共有を実施している。記録に残す。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	●		毎日支援の記録をとり、支援の検証改善は朝礼でリフレクションを行い改善につなげている。
18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	●		児童に長期担当をつけており、全体の目と担当の目、児発管の見立てを合わせモニタリングを行う。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	●		
関係機関や保護者	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加しているか	●		長期担当または主に児発管が参加するようにしている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか		●	学校とは直接連絡をとるのは控えている。担当者会議の時のみ。下校時刻、行事等は保護者様と通じて確認を毎週行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		●	UNICO内にこれまで該当する利用者はいないが、受け入れをする場合には、主治医等と連絡体制を整える等対応したいと考えている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか		●	保育園等への直接聞き取りは過去行っていませんが、保護者・相談支援事業所を経由または姉妹教室の児童発達支援事業所からの情報提供等講義に行っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	-	-	事業所内にこれまで該当する利用者がないため、提供はしていませんが、今後障害福祉サービス事業所へ移行するケースがある場合には対応したいと考えている。

との連携	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	●	市の連携会議(研修)や支援センターが行う研修には積極的に参加するようにしている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	●	活動で出かけた先で他児童とのかかわりはある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	●	優先的に参加をしている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	●	送迎時やモニタリング、担当者会議、連絡帳で伝えているが不十分さも感じており、頻度を増やす、もっと伝えられる方法を模索している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	●	保護者研修のようなプログラムはありませんが、保護者面談や電話相談、保護者と一緒の活動参加イベントを開催し、その中でサポートしている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	●	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	●	保護者の気持ちをしっかりと受け取りながらも一緒に考えていけるよう、対応の仕方は常に対人援助の方法を意識している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	●	親子教室イベントを実施し、保護者同士のコミュニケーションの場をつくっている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	●	誠実な対応を心掛けている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	●	
	35	個人情報に十分注意しているか	●	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	●	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	●		
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	●	社内で、必ず周知や訓練をおこなっている。保護者には現時点周知できていない。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	●	上記に同じ。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	●	虐待防止委員会、ケース会の中で認識をそろえている。お互いに声を掛け合う意識も日頃から持てるようにしている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	●	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	●	保護者と連携をとり、毎回食事の活動は児童共有でかならず確認している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	●	毎日の振り返りで項目に入れていて作成している。